

自立活動について

枚方市立 津田小学校

奥野 睦美

1

支援学級での自立活動の取り組み

2

支援学級と通常の学級の連携について

3

支援学級在籍児童のサポート

4

小中学校間での連携

5

本人・保護者の思いについて

6

将来的な学びの場の選択について

教科指導

- ・ 主に国語、算数
- ・ 当該学年の内容や下学年の内容
- ・ 教科横断的な集団学習。



自立活動

- ・ 週1時間以上
- ・ 週1回自立活動の時間を設定して実施。
- ・ 毎時間の数分を使って実施。

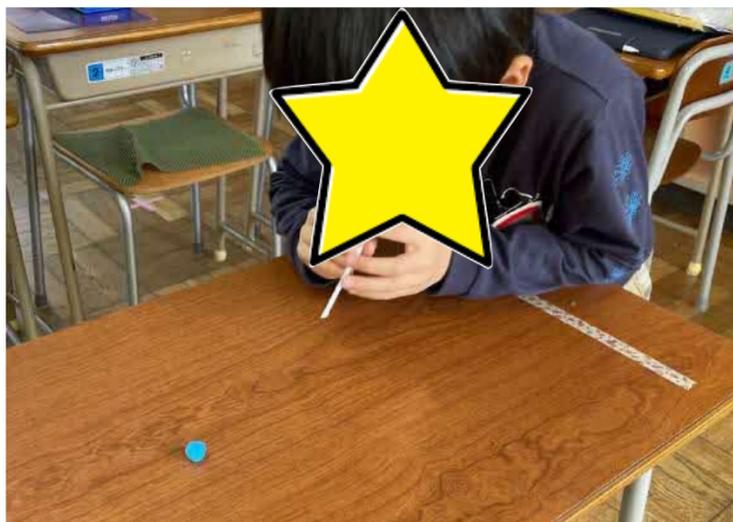


<p>① 健康の保持</p>	<p>① 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。</p> <p>② 病気の状態の理解と生活管理に関する事。</p> <p>③ 身体各部の状態の理解と養護に関する事。</p> <p>④ 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。</p> <p>⑤ 健康状態の維持・改善に関する事。</p>	<p>④ 環境の把握</p>	<p>① 保有する感覚の活用に関する事。</p> <p>② 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。</p> <p>③ 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。</p> <p>④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。</p> <p>⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。</p>
<p>② 心理的な安定</p>	<p>① 情緒の安定に関する事。</p> <p>② 状況の理解と変化への対応に関する事。</p> <p>③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。</p>	<p>⑤ 身体の動き</p>	<p>① 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。</p> <p>② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。</p> <p>③ 日常生活に必要な基本動作に関する事。</p> <p>④ 身体の移動能力に関する事。</p> <p>⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。</p>
<p>③ 人間関係の形成</p>	<p>① 他者とのかかわりの基礎に関する事。</p> <p>② 他者の意図や感情の理解に関する事。</p> <p>③ 自己の理解と行動の調整に関する事。</p> <p>④ 集団への参加の基礎に関する事。</p>	<p>⑥ コミュニケーション</p>	<p>① コミュニケーションの基礎的能力に関する事。</p> <p>② 言語の受容と表出に関する事。</p> <p>③ 言語の形成と活用に関する事。</p> <p>④ コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。</p> <p>⑤ 状況に応じたコミュニケーションに関する事。</p>

支援学級での自立活動の取り組み

① 健康の保持

じりつ
①からだ 

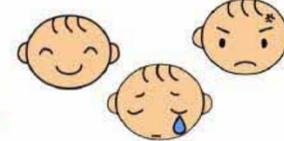


め) よい声の大きさを学ぼう。



電車	2	0
発表	4	4
ゲーム	4	3
		0

② 心理的な安定

じりつ
②きもち 




ふつう
いやだ
さんちよう
こまった
つまらない
くやしい
いやだ
こわい

③ 人間関係の形成

じりつ

③かかわり



④ 環境の把握

じりつ

④みる・きく・おぼえる



つぎの絵を1分で
おぼえてね



こんなとき どうする??



ブランコをしていたら、ともだちに「かわって」といわれた。

こんなとき どうする?



- ① 「いいよ」といってかわる。
- ② まだしたいから かわらない
- ③ じかみをきめて こうたいする



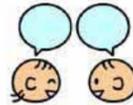
支援学級での自立活動の取り組み

⑤ 身体の動き

じりつ
⑤うごき 



⑥ コミュニケーション

じりつ
⑥はなす 



日々の学習の共有

- ・ Google classroomを使った保護者とのやり取りを通常の学級担任が見ることができるように
- ・ 学年付き → 最低月1回は支援担も学年会議に参加する。学習内容、合理的配慮、行事について共有。



今日こんなことが
あって～

と何気なく話す時間の確保が
難しい・・・

通常の学級

合理的配慮
共同学習



支援学級（通級）

自立活動



個々の目標を
共有し、目標に応じた
支援ができていますか？

それぞれで学んでいることが
リンクしているか？

- ☑ 時間割の工夫・・・学級へ入り込みできる時間を確保
 - ⇒ 支援在籍児童への合理的配慮は適切かどうか。
 - ⇒ 学級での学習活動をサポート。
- ☑ 支援教育支援員の活用。
- ☑ 校内支援委員会を設置。また支援通級共有会を実施
 - ⇒ 支援在籍児童の日々の様子を校内委員会にて共有。
 - ⇒ 年2回、全職員で情報を共有する時間を設定。



特別支援コーディネーター同士の交流

- ・ 進学に向けて、適切な学びの場の選択ができるよう情報を交換。
- ・ 普段の授業内容、児童の様子等の情報を共有。
- ・ 中学校における支援教育について

通級利用、支援学級入級までのステップを明確化

ステップ1

担任

全ての児童対象にUDの観点を取り入れた授業を実施。

ステップ2

担任、校内委員会

校内委員会で情報共有、授業観察実施

個別の支援（保護者の了承を得る）

ステップ3

担任、校内委員会、通級指導教室担当
別室での個別の支援を実施
必要に応じて支援入級を検討

ステップ4

支援担、学級担、校内委員会
支援学級での指導を行う。



将来的な学びの場について

小学校⇒中学校 継続？ 退級？

中学校卒業後 いろいろな選択肢がある

中学校の支援学級の先生からの話を聞いた上で
6年生保護者との面談を行う。

児童の将来を見据えた学びの場の選択を目指す

